



教室で正体を隠した 偽装勧誘が報告されています

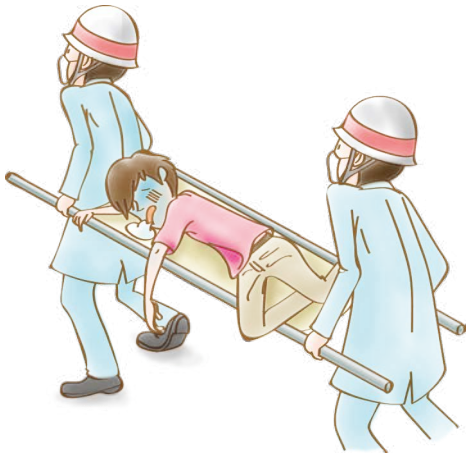
昼休み、川内講義棟の空き教室に学生を呼びいれて、サンドイッチなどの軽食をふるまったり、学外者によるゴスペルコンサートなどをきっかけにして不審な勧誘を受けたという相談・苦情が多く寄せられています。誘いをかけてくる際は、自分を磨いたりするサークルやボランティア活動団体を名乗ったりして、個人の名前や電話番号、メールアドレスのほかに、活動とはおよそ関係のない実家の住所を求めたりしています。こうした勧誘の多くは、宗教勧誘であり、始めは「●●教」、「●●教会」という団体名を明かさず、ゴスペル、アンケート、ボランティア、スポーツなどをキーワードにして近づいてきます。正体を隠して言葉巧みに近づき、断りにくい状況を作ってから正体を現すのは正当な方法とは到底言えません。

大学は、外部組織・団体による組織的な学内における活動、昼休みや放課後とはいえ、講義棟教室等でのコンサートや集会の開催を認めておりません。このような不審な集団や活動については、みなさんからの連絡があった際、現場を確認の上、再三にわたって注意しています。こうした場面を見かけたり、教室に引き込まれそうになったときは、決して応じることなく、管理棟の学生支援課や教務課の窓口にご一報ください。

最近、インターネットの交流サイト、「face book」、「Twitter」、「mixi」などで勧誘される例が新聞等でも報道されています。特に新入生は格好のターゲットですから、注意してください。

**東北大学は、キャンパスにおける
外部の組織的な勧誘等の活動を禁止しています**

飲酒について考えてみてください



4月以降、一部の学寮やクラブ、サークルにおいて、未成年学生に飲酒を提供したり、大声で騒いだりするなど、迷惑・苦情・相談が大学に寄せられています。これから夏季休暇になると、友人同士の旅行、クラブ等の合宿・遠征などの機会が増える時期です。これに伴って懇親会や打上げ等で飲酒する機会も増えます。また普段と異なる開放感などから、事故に遭遇する危険性も高くなります。

お酒は関わり方次第で重大な事故につながる可能性があります。時には死に至ることもあります。毎年、飲酒による悲しい事故が起こっています。

今回は、実際に起こった未成年学生の飲酒事故のいくつかの事例についてお知らせしますので、少しでも現実を知っていただき、「飲酒」について考えてみてください。

他大学における未成年の飲酒死亡事例

CASE 1

2008年4月

寮の新入生歓迎コンパで、ビール・焼酎を飲まされ、意識朦朧の状態になり、寝たまま自室に運ばれた。翌朝、呼吸停止の状態で見つかり、病院に運ばれたが死亡が確認された。飲酒を強要した2年生が退学処分のほか15人が懲戒処分となった。

CASE 2

2009年8月

音楽系サークル部員が他県で行われた合宿に参加し、午後6時頃から40人ほどで飲酒していたが、急に具合が悪くなり、病院に運ばれたが午後11時30分過ぎに死亡した。死因は、急性アルコール中毒によるものであった。

CASE 3

2012年5月

アメフト部のバーベキューパーティに参加し飲酒した。未成年7人を含む9人の学生が救急車で病院に搬送され、約2週間後、意識不明で重体の未成年の1年生が死亡した。大学は先輩部員による飲酒強要があったと発表した。歴史と伝統のある同部は廃部となった。（「学生協だよりNo.44」から再掲）

CASE 4

2013年7月

水泳部の大会打上げと称して飲酒した未成年の部員が、飲酒後におう吐、顔面蒼白となり、病院に救急搬送されたが2時間後に死亡が確認された。部員は他の未成年や上級生の部員ら15名とビール、梅酒を7～8杯飲んでおり、死因は急性アルコール中毒とみられている。

未成年の飲酒が禁止・危険なのは？

- 法律で20歳未満の飲酒は禁止されています。(未成年者飲酒禁止法)
- お酒を飲む経験がなく、自分の体質(遺伝タイプ)、飲める量(分解できる量)についての認識がなく、急性アルコール中毒に陥りやすい。
- 成長期にある身体、特に脳、肝臓、生殖器官に悪影響を及ぼしやすい。



日本人はお酒に弱い？・・・二日酔いと遺伝子タイプ

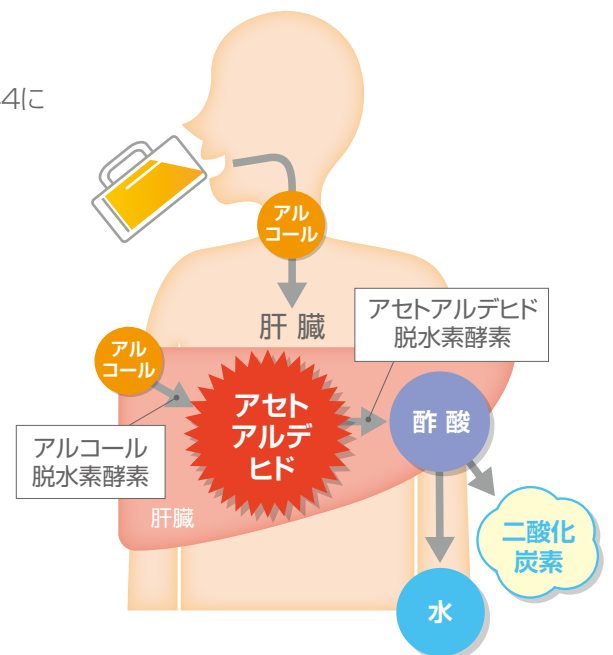
アルコールを摂取すると、体内でアルコールはアルコール脱水素酵素によりアセトアルデヒドに代謝されます。さらにアセトアルデヒドは、アセトアルデヒド脱水素酵素により酢酸へと代謝され、最終的には水と二酸化炭素に分解されます。

アルコールの中間代謝物質であるこのアセトアルデヒドは毒性が非常に強く、その毒性により引き起こされる症状が二日酔い(頭痛、吐き気、朦朧など)です。つまり二日酔いの原因はアルコールそのものではなく、アセトアルデヒドによって引き起こされます。

アセトアルデヒド脱水素酵素は、遺伝子に多型(変異)があり、人種あるいは個人によりその代謝能力に差が見られます。日本人を含むモンゴロイドのほぼ半数はアセトアルデヒド脱水素酵素の働きが弱い「低活性型」か、全く働かない「失活型」であるため、欧米人(コーカソイド、ネグロイド)と比べて酒に弱く二日酔いになりやすい、全く酒を飲めない(いわゆる「下戸」)タイプになります。

体質的(遺伝的)にアルコールを飲めない友人や後輩らに、アセトアルデヒドを勧めますか？

お酒との正しいつきあい方については、学生協だよりNo39、No44に特集してありますので、一読の上、しっかりと理解しましょう。



◎ 絶対ダメ!脱法ドラッグ…合法ハーブ、アロマ、お香

**絶対!
ダメ!**

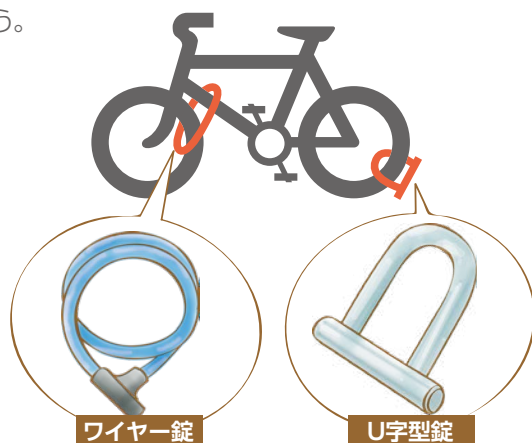
いわゆる「脱法ドラッグ」は、合法ハーブやアロマなどと称して販売されていますが、法律の規制を逃れるための方便で、**実態は麻薬や大麻と同じ**か、それ以上に危険なものです。「合法」という名前にだまされないでください。精神が錯乱し、犯罪の引き金になったり、意識障害や呼吸困難など深刻な健康被害や死亡事故を招くこともある危険なものです。「**スッキリする**」、「**ダイエットできる**」といった誘い文句は**間違った情報**です。絶対に手を出さないでください。

◎ 油断しないで!…面倒がらずに、カギをかけてください

この表は、川内北キャンパスにおける自転車とバイクの盗難件数をまとめたものです。被害にあった学生のほとんどは、カギをかけていません。これでは、泥棒に盗んでくださいと言っているようなものです。自分のものは大丈夫だろう、安心だろうと思わずに、油断しないでしっかりとカギをかけてください。一般にU字型錠やワイヤー錠は効果が高いと言われています。大切な自転車を泥棒の手から守りましょう。

年度	2011年度	2012年度	2013年度
盗難件数	20(1)	22(1)	9(1)
施錠なし	10(1)	18(1)	3
1か所施錠	8	4	5(1)
2か所施錠	2	0	1

※1 かつこ内は、バイクの盗難件数で内数 ※2 2013年度は、7月1日までの件数



◎ 自転車・原付バイク事故に備え任意保険に加入を!

本学では、自転車・原付バイクによる事故の割合が増加しています。留学生が前方不注意により車と接触し、任意保険に未加入のため、修理代を直接請求されるといった事例も起きています。こうした場合、相手側と直接交渉することになり、多大な時間と負担を要することになります。ルールとマナーを守って運転するのは当たり前ですが、どんなに安全運転をしていても事故に遭う可能性はあります。「もしも」の場合に備え、留学生に限らず、自転車や原付バイクの利用者は、必ず損害賠償付きの任意保険に加入してください。